

# Montserrat Palaudermas氏講演要旨

- 「共存」とは利用が認可されている作物の生産やマーケティングの問題であり、作物や生産物の安全性に関する問題ではない。
- 遺伝子組み換え作物の意図せざる混入に影響するいくつかのファクターのうち、生産者による管理が難しいのは交雑である。
- 遺伝子組み換え作物と、非組み換え作物や近縁野生種の交雑の割合は、ジーンフロー（遺伝子の移動）を最小限に留め、封じ込め戦略を確立するために、ケースバイケースで研究されなければならない。
- 交雑に影響する主なファクターは開花期の一致と距離である。
- 調査によれば、花粉のフローをEUでの遺伝子組み換え表示制度における組み換え作物の混入限界値である0.9%以内に保つのに必要な保証距離はトウモロコシは20m、イネは10mである。

# Juan Antonio Claveria 氏講演要旨

- スペインでは、農業生産者は害虫の被害程度などそれぞれの必要に応じて遺伝子組み換え作物を導入している。
- Btトウモロコシは農業生産者に高収入、労働コスト減少、品質向上など多くの恩恵をもたらしているため多くの農業生産者が導入している。
- 科学的に裏付けされた隔離距離をとるなどの処置をしているため近隣と紛争になることはない。そもそも近隣の農業生産者同士は歴史的に信頼関係が築かれており、合意を形成するのが容易である。
- 国境がなくなり国際間の競争が激化している状況で、農業生産者は先進技術を導入し競争力をもたなければならない。